

東京都及び16市区を対象としたタイムライン見直しに向けた意見収集(ヒアリング)

1. 調査目的及びヒアリング内容

■ 目的

台風第19号でタイムライン運用以来はじめてTLレベル3(目安の時刻-3H)に到達したことを踏まえた意見、課題等を聞き取り、タイムライン見直しの参考とする

■ ヒアリング内容

- ・ タイムラインの修正意見
- ・ 共通版タイムラインに盛り込む防災行動の種類について
- ・ 重要な防災行動について
- ・ タイムライン情報共有ツールについて
- ・ 各機関におけるタイムライン運用状況について
- ・ タイムラインの運用訓練、テキストブックの修正意見
- ・ タイムラインや減災対策協議会など、全般的な事務局への意見・要望
- ・ 広域避難関係の防災行動の今後の修正方針について(江東5区のみ)

2. 調査日程(調査期間:令和2年2月12日~3月10日)

機 関 名	部 署	日 程
東京都	総務局 総合防災部 防災対策課	2月21日13:00~
	交通局 総務部 安全対策推進課	2月13日16:00~
	建設局 河川部 防災課	3月10日11:00~
千代田区	災害対策・危機管理課	2月25日10:30~
中央区	危機管理課	2月13日10:00~
港区	防災危機管理室 防災課	2月26日11:00~
文京区	危機管理室 防災課	2月21日10:00~
台東区	道路管理課 危機管理室危機・災害対策課	3月 9日16:00~
墨田区	都市計画部 危機管理担当 防災課	2月26日13:30~
江東区	総務部 危機管理室 防災課	2月25日13:00~
	土木部 河川公園課	2月25日13:00~
北区	危機管理室 防災課	2月27日10:00~
荒川区	区民生活部 防災課	2月21日15:30~
板橋区	危機管理室 防災危機管理課	2月25日16:00~
足立区	危機管理部 災害対策課	2月27日15:30~
	都市建設部 企画調整課	2月27日15:30~
葛飾区	地域振興部 危機管理課	2月12日14:00~
江戸川区	危機管理室 防災危機管理課	2月12日16:00~
川口市	危機管理部 防災課	2月17日11:00~
蕨市	市民生活部 安全安心推進課	2月13日13:30~
戸田市	危機管理防災課	2月19日13:00~

3. 東京都及び16市区を対象としたタイムライン見直しに向けた意見収集(ヒアリング)調査結果

機関名称	(1)タイムラインの修正意見	(2)共通版タイムライン検討に向けて				(3)タイムライン情報共有ツールについて		(4)各機関におけるタイムライン運用状況について	(5)タイムラインの運用訓練、テキストブックの修正意見	(6)タイムラインや減災対策協議会など、全般的な事務局への意見・要望	(7)広域避難関係の防災行動の今後の修正方針について(江東5区のみ)
	タイムラインの改善・修正に向けた意見・要望	①共通版タイムラインに盛り込む防災行動の種類について	②重要な防災行動について				①情報共有ツールの運用改善に向けて	②その他、情報共有ツールへの意見	(全庁的にタイムライン運用体制を確立させるために必要な取組内容や、理想とする全庁での運用手法)		(荒川下流タイムライン中の広域避難に関する防災行動の修正方針)
東京都総務局			<p><洪水予報の受信> 受信方法・庁内での周知・活用方法 & 洪水予報と連動して実施する防災行動</p> <p>総合防災部および河川部がFAXやメールで受信。総合防災部から関係各局に連絡。総合防災部から区市町村に伝達。避難情報が出ていない区への連絡の際の判断材料の1つ。</p>	<p><水防警報の受信> 受信方法・庁内での周知・活用方法 & 水防警報と連動して実施する防災行動</p> <p>総合防災部および河川部がFAXとメールで受信。警視庁、消防庁へ伝達。</p>	<p><河川事務所のホットライン> 庁内での周知・活用方法 & ホットラインと連動して実施する防災行動</p> <p>ホットラインを活用しなかった。</p>	<p><洪水予報の地下街等、要配慮者利用施設、大規模工場等への伝達> 方法、タイミング・実施者など</p> <p>SNS、HPを通じて伝達。</p>	<p>今後、他の河川のタイムラインも運用が始まると、それぞれログインするのが手間なので、国河川のタイムラインはまとめて見ることが出来るようにするなどしたほうがよいと思う。</p>	<p>同じことを何度も記入することが負担である。誰でも使えるシンプルなものにしたい。</p>	<p>岩淵水門の開操作について、事前情報を提供して欲しい。/メールが埋没するのでメール以外の補助系統でも情報伝達してもらいたい。/タイムラインの適用開始は台風が小笠原にいる時点からであると早すぎと感じる。荒川に注目すべきところで情報を出してほしい。</p>		
東京都建設局			<p>メールとFAXで受信。FAXで来たものを都のシステムで伝達。区にも伝達。水防体制構築の基準の目安にしている。</p>	<p>メールとFAXで受信。FAXで来たものを都のシステムで関係部局に伝達。区にも伝達。水防体制設置、解除の目安としている。</p>			<p>避難情報、被災状況</p>	<p>都の水防計画の記載している他局とは情報伝達している。</p>	<p>操作方法が学べてやることはわかった。訓練のおかげで、入力してみようと思った。</p>		
東京都交通局	<p>台風19号ではタイムライン進行スピードが早すぎる期間があったため、今後タイムラインの進行がどうなるかの予測情報を提供してほしい。</p>	<p>気象・水門情報の提供・収集・確認は一度記載して、(以降随時)とすればよい。</p>	<p>FAX(防災用)のみ。検討材料の1つである。</p>				<p>避難情報の発表状況。職員や電車・バスの退避の検討に活用したい。</p>	<p>避難情報のみ一覧化、また地図上で町丁目のエリア毎で示すとわかりやすいし防災対応がとりやすい。もしくは、避難情報が掲載される各市区HPのURL(ただし有事にダウンしないミラーページなど)の一覧があればよい。各機関のタイムライン対応状況は表形式で閲覧したい</p>	<p>荒川洪水を対象とした交通局のタイムラインを作成しており、2020年の夏に第1版完成予定。鉄道局の7つの部を対象とし、A3用紙1枚程度の内容にする予定。部以下の課や現場等は細かい話になるため記載の予定はない。荒下タイムラインは総務部のみで運用している。</p>	<p>テキストブックについては、どういう考えに基づいてタイムラインが設計されているのかという判断根拠として活用した。</p>	<p>今回「-3H」の情報で組織内で混乱が起こったため目安の時間は無くした方がよい。レベルをしっかりと伝えることが大事。広域避難に関する防災行動については5区から広域避難検討開始の情報が共有されなかった。検討状況等(検討開始・終了や過程・結果・理由)も共有してほしい。今後台風第19号時の自治体の災害対応がどのような判断・対応だったのか知りあう場があればよいと思う。</p>
川口市		<p>上記程度でよい。</p>	<p>河川課と防災課がFAXで受信。併せて川の防災情報で情報を収集。オペレーションルームで各部署と情報を共有し、関係部局へはクラウド型の川口市防災システムで伝達。今後の見込み等複数の情報と合わせた防災行動の判断材料の1つ。</p>	<p>河川課と防災課がFAXで受信。伝達はなし。目安にはしていない。</p>	<p>河川事務所長から副市長に連絡。第2ホットラインは課長が問い合わせ</p>	<p>鳩ヶ谷駅地下空間へ電話で伝達。要配慮者施設に電話で伝達。大規模工場への伝達はない。</p>		<p>自治体の発令する避難情報、避難所の開設等はいらず最低限の情報でよい。自治体によって中小河川の状況等が異なるため、避難情報の発令や避難所の開設状況も特に参考にならない。</p>	<p>他部署でタイムライン運用は難しい。独自に行動されて困ることもあるため、指揮系統が統率をとり各部署で必要な防災行動だけを促す方がよい。</p>	<p>訓練シナリオについては複雑化等をする必要はない。新担当者からすると進みが早かった。</p>	

機 関 名 称	(1)タイムラインの修正 意見	(2)共通版タイムライン検討に向けて				(3)タイムライン情報共有ツールについて		(4)各機関におけるタイム ライン運用状況につ いて	(5)タイムラインの運用 訓練、テキストブック の修正意見	(6)タイムラインや減災 対策協議会など、全 般的な事務局への意 見・要望	(7)広域避難関係の防 災行動の今後の修正 方針について(江東5 区のみ)			
	タイムラインの改善・ 修正に向けた意見・要 望	①共通版タイムライン に盛り込む防災行動 の種類について	②重要な防災行動ついて		＜洪水予報の受信＞ 受信方法・庁内での 周知・活用方法 & 洪 水予報と連動して実 施する防災行動	＜水防警報の受信＞ 受信方法・庁内での 周知・活用方法 & 水 防警報と連動して実 施する防災行動	＜河川事務所のホット ライン＞ 庁内での周知・活用 方法 & ホットラインと 連動して実施する防 災行動	＜洪水予報の地下街 等、要配慮者利用施 設、大規模工場等へ の伝達＞ 方法、タイミング・実 施者など	①情報共有ツールの 運用改善に向けて (各機関の防災行動 で参考にしたい防災 行動)	②その他、情報共有 ツールへの意見	(全庁的にタイムライ ン運用体制を確立さ せるために必要な取 組内容や、理想とする 全庁での運用手法)	運用訓練は災害対応 の役に立ったので引き 続き実施してほしい。 タイムラインのシナリオ 通りいかないというこ を前提とした、訓練を 実施するとより現実味 のある訓練になると思 う。	情報共有で手数が増え ると記入できなくなる ので簡素に。	(荒川下流タイムライ ン中の広域避難に関 する防災行動の修正 方針)
蕨市	台風19号でタイムライ ンが計画通りに進ま ないことがわかったが、内 容を頻繁に変えるより は目安として使えるタイ ムラインを整理した方 がよい。タイムライン以 上に役立ったのは河川 事務所長から市長宛の ホットラインであった。 今後タイムラインを直す のならば蕨市、川口 市、戸田市の3市(Aブ ロック)で整合性をとっ て修正したい。	現状よりも少ない項目 に限定するべきだと思 うため、上記程度でよ い。	安心安全課の防災担 当が県の防災行政無 線(FAX)で受信。道路 課と消防にFAX又は電 話(警戒体制時)で伝 達。 防災行動の判断材料 の1つ。	道路課と安心安全課の 防災担当が県の防災 行政無線(FAX)で受 信。 電話で防災担当が消 防本部に、消防本部が 消防団に伝達。 水防活動の判断の材 料の1つ。	河川事務所長から市長 へ連絡。 市長から防災担当へ伝 達。 台風19号の際には20 時に避難勧告を実施し た決め手になった。	地下街なし。 要配慮者利用施設に 個別での連絡はしてい ない(住民同様緊急速 報メールや防災無線で の伝達となった)。 大規模工場の指定な し。	戸田市、川口市の情報 さえ見られれば事足り ている。	県の情報共有システム への情報入力を優先せ ざるを得ない。 避難情報のみに特化 するなど入力しなければ ならない情報が少な ければ対応できるかも しれない。	全庁的に運用するため には職員研修や訓練 の実施が必要。 災害対応は毎回タイム ライン通りにいかない が、防災が主導するの ではなく各課で柔軟性 を持って対応してもら えばよいと思う。	情報共有で手数が増え ると記入できなくなる ので簡素に。				
戸田市		避難所の開設開始は あってもよい。	危機管理課と河川課が FAXとメールで受信。 台風19号の際には避 難警報解除のタイミン グの目安とした。	危機管理課と河川課が FAXとメールで受信。	河川事務所長から市長 に連絡。 危機管理課の担当者 と河川事務所の担当者 避難情報の目安として いる。	地下街なし。 大規模工場の指定な し。 防災行政無線一括で 伝達してしまっている。	荒川上流部の避難情 報の発令状況もツール で分かればよい。	その防災行動を実際 にやってみたか分かる とよい。	福祉と連携できればよ い。 タイムラインは早めの 行動を促すためのもの であるが、分からない 人からすると、逆にこ こまではやらなくても 大丈夫と思う人もい るので、タイムライン を分かる人が主軸とな って部内や他の部局 に伝達する方がよい と思う。	参加はできなかった が、訓練を開催してい ただけるのはありが たい。 出水期前に覚えている 人がいる方がよいので どんどん開催してほ しい。	災害時は他の機関の トリガーは気にしない ので自分の市町村の 行動だけ見ればよい。 防災行動項目のみで 該当する市町村が見 える程度でもよい。			
葛飾区		上記程度でよい。	地域防災課がFAXで受 信。 概要をFAX・メールで 全庁に共有。 職員参集、避難勧告 等の目安としている。	FAXで受信。FAXとメ ールで全庁又は関係 部署に伝達。 特段防災行動の目安 にはしていない。	河川事務所から課長 に連絡。 第2ホットラインは防 災担当が問い合わせ。 区長・部長会議で共有 している。 体制強化の判断材料 の1つ。	避難情報は電話・FAX で一斉伝達している が、洪水予報はそのまま 送っても内容が難し いと思われるため伝 達していない。	避難情報の発令状況、 避難所の開設状況、災 害対応の体制	東京都災害情報シス テム(DIS)では埼玉 県の状況が不明。上 流3市の対応がわか れば当区も対応すべ きか否かの判断材料 になる。また、例え ば避難所の開設や 避難情報の発表等 を「何時に」実施し たという時刻が知れ ればよい。	全部署の行動が記載 されたタイムライン があれば全庁で運用 が可能だと思う。	転属の人もいるので 毎年出水期前に研修 を実施してほしい。 訓練はもう少し対応 を考えさせる場 面があってもよい と思う。		平成30年8月江東5 区大規模水害広域 避難計画に基づき 修正。 2020年12月実施 の広域避難図上訓 練を受けてタイム ライン中の広域 避難に関する事項 が修正される可 能性がある。		
江戸川区		むしろ重複を減ら して項目を減らした い。 漠然とした項目で よいので細目がいら ない。 各機関版もそこまで 細かくなくてよい。	危機管理課と土木部 がメールとFAXで受 信。			地下街なし。 要配慮者利用施設は 1038施設と膨大 であるため、プッシュ 型サービスである「 えどがわメール ニュース」の登録を 促している。	避難情報、洪水予報、 気象情報	色々なところに飛ぶ より一覧で見られれば よい。	全庁的にタイムライ ン運用できたらいい が、用語が分かる水 準にすることまでが 相当大変。特に福 祉部と連携が出来 たらよいが、意識啓 発の話は別次元。 部署ごとの役割が 決まると我が事と してタイムラインを 使えないのでは。	役に立っている。 新しい人と何回か 参加している人 とで初級、中級 のように内容を 変えてはどうか。		平成30年8月江東5 区大規模水害広域 避難計画に基づき 修正。		
墨田区		実際使うとき共通 版と各機関版の2つ を同時に運用する イメージが湧か ない。	防災課と都市整備 課がFAX、メールで 受信。 庁内周知は特にな し。 避難情報発表の目 安としている。	防災課および都市 整備課がFAXとメ ールで受信。 庁内周知は特にな し。 避難情報発表の目 安としている。	河川事務所担当者 に課長がホットライ ンでない普通の電 話で直接問い合 わせ。 氾濫後の体制をと るかどうかの目 安。	地下街には都市整 備課からFAXで洪 水予報を伝えている。 要配慮者施設には 現状伝達してい ない。 大規模工場の指 定なし。	災害対策本部の立ち 上げタイミング、 避難情報。	東京都災害情報シ ステム(DIS)と役割 が被るので、今の まま全部残しても よい。	各区によって要配 慮者の避難等につ いて担当する部 や課も異なると いうため、タイム ラインの一覧に盛 り込むとまた複 雑になるので、こ こは各区に任せ た方がよいと思 う。	運用訓練はよかつ た。 タイムラインのシ ステムを今迄あまり 使っていなかった ため、定期的 にやっていたけ るとよい。 テキストブック の内容もよかつた。 水害担当以外 の人が入力 できるように 簡易版のマニ ュアルがあ った方がよ い。		平成30年8月江東5 区大規模水害広域 避難計画に基づき 修正。		

機 関 名 称	(1)タイムラインの修正 意見 タイムラインの改善・ 修正に向けた意見・要 望	(2)共通版タイムライン検討に向けて ①共通版タイムラインに盛り込む防災行動の種類について ②重要な防災行動について ＜洪水予報の受信＞ 受信方法・市内での 周知・活用方法 & 洪 水予報と連動して実 施する防災行動 ＜水防警報の受信＞ 受信方法・市内での 周知・活用方法 & 水 防警報と連動して実 施する防災行動 ＜河川事務所のホット ライン＞ 市内での周知・活用 方法 & ホットラインと 連動して実施する防 災行動 ＜洪水予報の地下街 等、要配慮者利用施 設、大規模工場等へ の伝達＞ 方法、タイミング・実施 者など				(3)タイムライン情報共有ツールについて ①情報共有ツールの 運用改善に向けて (各機関の防災行動 で参考にしたい防災 行動) ②その他、情報共有 ツールへの意見	(4)各機関におけるタイ ムライン運用状況につ いて (全庁的にタイムライ ン運用体制を確立さ せるために必要な取 組内容や、理想とする 全庁での運用手法)	(5)タイムラインの運用 訓練、テキストブック の修正意見	(6)タイムラインや減災 対策協議会など、全 般的な事務局への意 見・要望	(7)広域避難関係の防 災行動の今後の修正 方針について(江東5 区のみ) (荒川下流タイムライ ン中の広域避難に関 する防災行動の修正 方針)		
江 東 区	左のタイムラインレベ ルが警戒レベルと間違 いやすい。 タイムラインに警戒レ ベルも載せてほしい。	対応状況の共有は、具 体的な内容を記入して 共有が出来るわけでは ないためなくてもよい。	河川公園課がFAX、 メールで受信。 防災課と緊急用FAXで 共有。	河川公園課がFAX、 メールで受信。 防災課と緊急用FAXで 共有。	河川事務所所長から防 災課長に連絡。 課長から各関係部署と 総務部長、土木部長等 の上層部に伝達。 避難所開設と避難勧告 発表の判断材料の1 つ。	地下街等、要配慮者利 用施設への伝達はな し。 大規模工場の指定な し。	落ちていてからでない と入力ができない。 台風15号と21号では土 の水防体制をとってい るかや資機材準備等につ いて見ていた。	項目が多い。 着信確認の返信メール が手間なので情報共有 ツールで受信確認がで きればよい。	組織全体は難しい。 防災課、河川公園課に 連絡を取る形が現実 的。	分かりやすかった。 資料も分かりやすかつ た。	セキュリティの関係上、 メールの着信確認機能 が使えず、毎回メール に返信することが手間 である。	平成30年8月江東5区 大規模水害広域避難 計画に基づき修正。
足 立 区	台風の規模等を考えて 避難情報を発表するた め、最初の方のタイム ラインレベル進行と避 難情報発表のタイミン グが合わなくなってい くことがあるため、水位 以外の指標もタイムラ インに取り入れていた だければよい。 夜の避難にならないよ う早めに出すこともあ り、区は住民のことも考 えて対応しないとけ ないため、タイムライ ンどおりにいかない。	市区の避難情報は荒 川以外にも対象が様々 であるため、土砂災害 なのか中小河川なのか 何に対する避難情報な のかがわかるようにし てほしい。	危機管理部、都市建設 部がFAXとメールで受 信。災害対策本部等 で必要な情報を共有。 避難勧告・指示等の発 令の目安。	危機管理部、都市建設 部がFAXとメールで受 信。災害対策本部等 で必要な情報を共有。 特段防災行動の目安 にはしていない。	河川事務所所長から区 長に連絡。 第二ホットラインは課 長、部長が問い合わせ。 避難所開設や避難勧 告・指示等、陸間を閉 めるなどの水防行動の 判断材料の1つ。	地下街は警戒レベル3 (避難判断水位)に到 達したときに、地域防 災計画に定めた施設へ 企画調整課から連絡を している。 高齢者等避難開始・避 難準備情報を要配慮者 利用施設に伝えている。 大規模工場の指定な し。	江東5区に関する情 報、避難に関する情 報、要配慮者施設への 事前伝達しているところ があるか	見たい関係機関だけ をピックアップして一 覧に出来る機能がほ しい。(ブロックごと だけでも)	対象施設や区の各部 ごとにタイムラインの 情報を時系列で整理 すると見易くなる と思う。	運用訓練の進行がと ても早く内容の把握 が難しいため、タイ ムラインの進行に少 し余裕がほしい。 言葉で説明される文 章が長く理解しづら い。 図上訓練のような形 でやってほしい。 災害対策本部のこ とも考えながらやる 時間が欲しかった。		平成30年8月江東5区 大規模水害広域避難 計画に基づき修正。
板 橋 区	台風接近の方に重き を置いて動いているこ とや、中小河川なども あり、防災行動のタイ ミングがタイムライン どおりにいかない。	アンケートに記載され ている程度の内容でよ い。	危機管理課と土木計 画課がFAXとメールで 受信。課内部で共有。 目安とする防災行動 は特になし。	危機管理課と土木計 画課がFAXとメールで 受信。関係部局との 会議で共有。 ポンプ車の手配など の目安としている。	所長から区長に連絡。 第二ホットラインは 危機管理室長、課長 が問い合わせ。 避難情報発表の判 断材料の1つ。	地下街は該当なし。 要配慮者利用施設は 来年度からFAXで注 意喚起するシステム により伝達。 大規模工場の指定 なし。		使っている人間がい ないこともあるので、 入力出来る人の裾野 を広げることが必要 か。共通版になれば 項目が減るので周知 しやすいのでは。 項目の中での達成 率が分かるとうい。	現状共有できていな い。 あらかじめやること を上げておいてチェ ックしていくリスト 「レディゴーリスト」 を来年度から「部」 割り当てで運用予 定。	テキストブックは視 覚的でわかりやす い。	共通版になって、少 なくないと使いやすい と思います。	
北 区	台風19号を受けて全 体的に項目を実行す るタイミングが遅いと 感じた。(例:災害対 策本部の設置はより 24時間前より早い タイミングで行う べきではないか)行 動項目を実行後、 継続して行うもの については再度項目 として出てきた際 に行動項目として チェックを入れる べきか。 繰り返し登場する 項目が分かりづら いため、色分けさ れるとうい。	避難対策に関する防 災行動はあっても よい。	防災課がFAXとメ ールで受信。 市内メール配信サ ービスで伝達。 避難情報の発令の 目安としている。	土木課がFAXで受 信。防災課への共 有はなし。	河川事務所所長から 区長に連絡。 第二ホットライン として部長が受信、 部の中で共有。 目安として実施 している防災行動 はなし。	現状は伝達なし。	重要な防災行動を選 定する際には、関 係部署で情報共有 ツールの入力(チェ ック)が多い項目 を残すことが効果 的と考える。 チェックの少ない 項目は問題がない か、あまり注視す る必要がない可 能性がある。	使い勝手を高める ために修正改善を 行うことが必要 かと思う。	福祉や区の者が タイムラインとは 何かを知らない ため、まずはタイ ムラインを認識 させることから。 タイムライン運 用本部に司令塔 を置かないと、 実働部隊がタイ ムラインを動か すと後手後手 になっていく。	担当者が変わると 分からない。 まず、タイムライ ンの仕組み、読 み方、使い方 から教えていただ けるとよい。 出水期前は人事 異動してもない ので出水期が 終わった後、翌 年に向けての方 が役立つ。	タイムライン中の 表現の統一した 方がわかりやす い。(TLとタイム ラインなど)自 分の区が基準に している観測所 以外からも洪水 予報が大量に 来て整理が出来 なくなるので、 どの観測所から 出ているのか がすぐわかる ように荒川氾 濫注意情報の 横や見出しの中 で観測所名が 載っていると よい。	
千 代 田 区		アンケートに記載され ている程度の内容でよ い。	危機管理課と道路公 園課がFAXとメ ールで受信。 安心安全メール というプッシュ 型メール配信 により情報共有。 避難情報発表 の判断材料の 一つ。	来ていない。	ホットラインを 活用しなかつ た。	地下街等、要 配慮者利用 施設は「安心 安全メール」 により通知。 大規模工場 の指定なし。	近隣区の避難 情報	一覧で見れる 機能がほしい。 見る機会が増 えれば入力 の頻度も増 えるのでは ない。 対応状況の 共有(取り 組んだこと、 見送ったこ とは当然 やることで あり、具 体的な対 応状況が 分かるわ けではない ので、項 目いらない のでは。	全庁的に運用は 難しい。 荒川とに接 していない 区では、リ ードタイム があるので、 切迫度に温 度差がある。		項目が多い。 タイムライン の計画通り 動くのが中 々難しい。 フェーズが ややこしい。 破堤後に何 時間後にど こまで水が 到達するか 正確な時間 があった方 が、イメージ しやすい。 氾濫解析は 地下鉄・地 下街も考慮 してほしい。 浸水で電気 を止めるな ど重要な インフラの 情報も載 せてほしい。	

機関名称	(1)タイムラインの修正意見	(2)共通版タイムライン検討に向けて				(3)タイムライン情報共有ツールについて		(4)各機関におけるタイムライン運用状況について	(5)タイムラインの運用訓練、テキストブックの修正意見	(6)タイムラインや減災対策協議会など、一般的な事務局への意見・要望	(7)広域避難関係の防災行動の今後の修正方針について(江東5区のみ)
	タイムラインの改善・修正に向けた意見・要望	①共通版タイムラインに盛り込む防災行動の種類について	②重要な防災行動について		①情報共有ツールの運用改善に向けて	②その他、情報共有ツールへの意見		(全庁的にタイムライン運用体制を確立させるために必要な取組内容や、理想とする全庁での運用手法)			(荒川下流タイムライン中の広域避難に関する防災行動の修正方針)
中央区	現状のタイムラインが細かすぎるので共通版は要素のみが分かる大雑把なものよい。	アンケートに記載されている程度の内容でよい。	<洪水予報の受信>受信方法・庁内での周知・活用方法 & 洪水予報と連動して実施する防災行動	<水防警報の受信>受信方法・庁内での周知・活用方法 & 水防警報と連動して実施する防災行動	<河川事務所のホットライン>庁内での周知・活用方法 & ホットラインと連動して実施する防災行動	<洪水予報の地下街等、要配慮者利用施設、大規模工場等への伝達>方法、タイミング・実施者など	避難情報、避難所の開放。地下街のような当たり前のことはいい。	タイムラインに関しては現在は係長一人で対応している状態。防災関係の部署のみならず、区の内部部署に国が働きかける事業があってほしい。	荒川に特化しているのがイメージがしやすく、役立ったが、荒川以外の要素も入れないと実際とは違ってしまふ。気象庁の方がいて臨場感があった。時間はちょうどよかった。	台風の際には風の被害等もあるので、水位に特化しているといい勝負がよくない。ツールの改良より使用ユーザーの育成や全庁的な普及啓発のための勉強会やマニュアル作りを先にすべきである。	
港区	ブロック分けが荒川、台東、文京とは少し違うように感じる。	市区それぞれの避難情報発報の基準が分かることよい。防災行動は、上記程度でよい。	防災課がFAXとメールで受信。水防本部で情報を共有。水防本部で防災行動の判断材料にしている。	来ていない。	ホットラインを活用しなかった。	地下街等への連絡は地下街連絡協議会がメールか電話で行う。要配慮者利用施設は福祉部局から連絡。大規模工場の指定なし。	避難所の開設状況、水位、破堤したら水がどこまで来ているか、被害状況。都や荒川河川事務所からのアドバイスが入っていたとすると有用である。気象庁の防災システムのように予報を文言で確認できるとよい。	福祉、教育、図書館など施設管理者については荒川が浸水したら、港区まで水が来るといふことやどういふときに浸水してくるかということからまず理解しないと時間軸と何をもとに判断するかが書いてあるとよい。	新しく来た人にとっては1日割いてもいいので状況付与があつてどうやって判断するかや、情報収集はどこでするのかといった総合的な訓練をした方がよい。	台風対応の時に川は川、雨は雨、風は風といったように分かれていると不便。港区は港区の列しか見ないので他の機関が並んでいるとわかりにくい。時間の流れが見えにくい。レベル・時系列ごとに1枚の方が見やすい。	
文京区		さらにシンプルにしてよいと思う。	防災課がメールで受信。庁内LANで共有。目安にはしていない。	来ていない。	ホットラインを活用しなかった。	要配慮者利用施設は神田川関係のことであれば福祉課が連絡。大規模工場の指定なし。	避難所の開設	東京都災害情報システム(DIS)で十分なので2つのツールへの入力負担。文京区は杉並区と新宿区が気になる。	防災住宅に住んでいて緊急時に本部に来ることができる人間に訓練に参加してもらおう。	長期台風の場合、参加した人がいつもいるとは限らないため、担当者以外も出席できるようにしてけるとよい。初めて参加する人にとっては、何をやっているか分からなかった。新しく異動してきた人のための研修があるとよい。	アンケートが多い。
台東区			危機・災害対策課と道路管理課がFAX、メールで受信。課内での共有の後、水防本部、災害対策本部で共有。特に連動した防災行動は無し。	危機・災害対策課と道路管理課がFAX、メールで受信。集まった時に口頭で水防本部内で周知。	水防関係の担当が連絡をすることになっている。得たい情報が得られなかった。	災害対策課が各地下街の施設管理者に伝達。要配慮者利用施設は伝達なし。大規模工場は指定なし。	避難情報、避難所の開設	まだ庁内の検討会でタイムラインをどう運用するか決めていない段階なので、分からない。各部署がタイムラインのどの防災行動を実行するのかが分かるツリーを区が作成できるシステムがあれば、各部署が自分のする行動をひと目で見れるのでよい。	事前に訓練することでツールのイメージが出来るのが役立った。	岩淵水門の開操作の可能性を教えてほしい(たとえ空振りでも重要な判断材料になる)。/エリアメールを夜中に出すと区民は困惑するため、エリアメールを出すタイミングを見直した方がよい。	
荒川区	東京都のDISがあり、情報共有ツール入力の優先順位が下がってしまう。タイムラインのホットラインの項目は消さないでほしい。(特にレベル4と5では)ブロック分けがD班だが、千代田や中央区などと温度差がある。荒川区が問い合わせた自治体は北区、板橋区、足立区、台東区、文京区なのでブロック分けを考えてほしい(Cブロックがよい)。	下水、支流、ポンプ稼働の情報、水門を閉じる判断材料があるとよい。	防災課と道路公園課がFAXとメールで受信。避難情報発表の判断材料の1つ。避難所開設場所の検討材料の1つ。	防災課と道路公園課がFAXとメールで受信。目安にはしていない。	課長、係長が荒下事務所長、担当者で連絡。連動する防災行動は特になし。	計画運休により連絡よりも先に駅が対策している。要配慮者利用施設は避難確保計画を提出いただいたところにFAXとメールでリストで区が咀嚼した災害情報を伝達。大規模工場の指定なし。	近隣区の情報。	出した情報について、どうして出したのかまで見れるとよい。現場サイドではあまり役立たない。東京都災害情報システム(DIS)に比べて利点がない。	災害対策本部を立ち上げれば全庁で共有。災害対策本部側がきちんとタイムラインを理解して、タイムラインに基づき指示を出す方がよいが、全庁でを大まかなものを共有しておくのはよいと思う。タイムラインが時間軸通りにいかないのも、対策が後手後手になるかも。要配慮者は逃げる場所がまだ決まっておらず、場所、手段の現実的な問題がある。	見たいと思うものをつくる必要がある。運用訓練は重要項目だけピックアップしたタイムラインで慣れさせずなどした方がよい。	ホットラインはいただきたい。/エリアメールで河川氾濫のおそれが夜中に起きたことにより住民から問い合わせが殺到してしまった。住民が戸惑うことや危険にさらされることはしてほしくない。/東京都災害情報システム(DIS)との重複は手間。